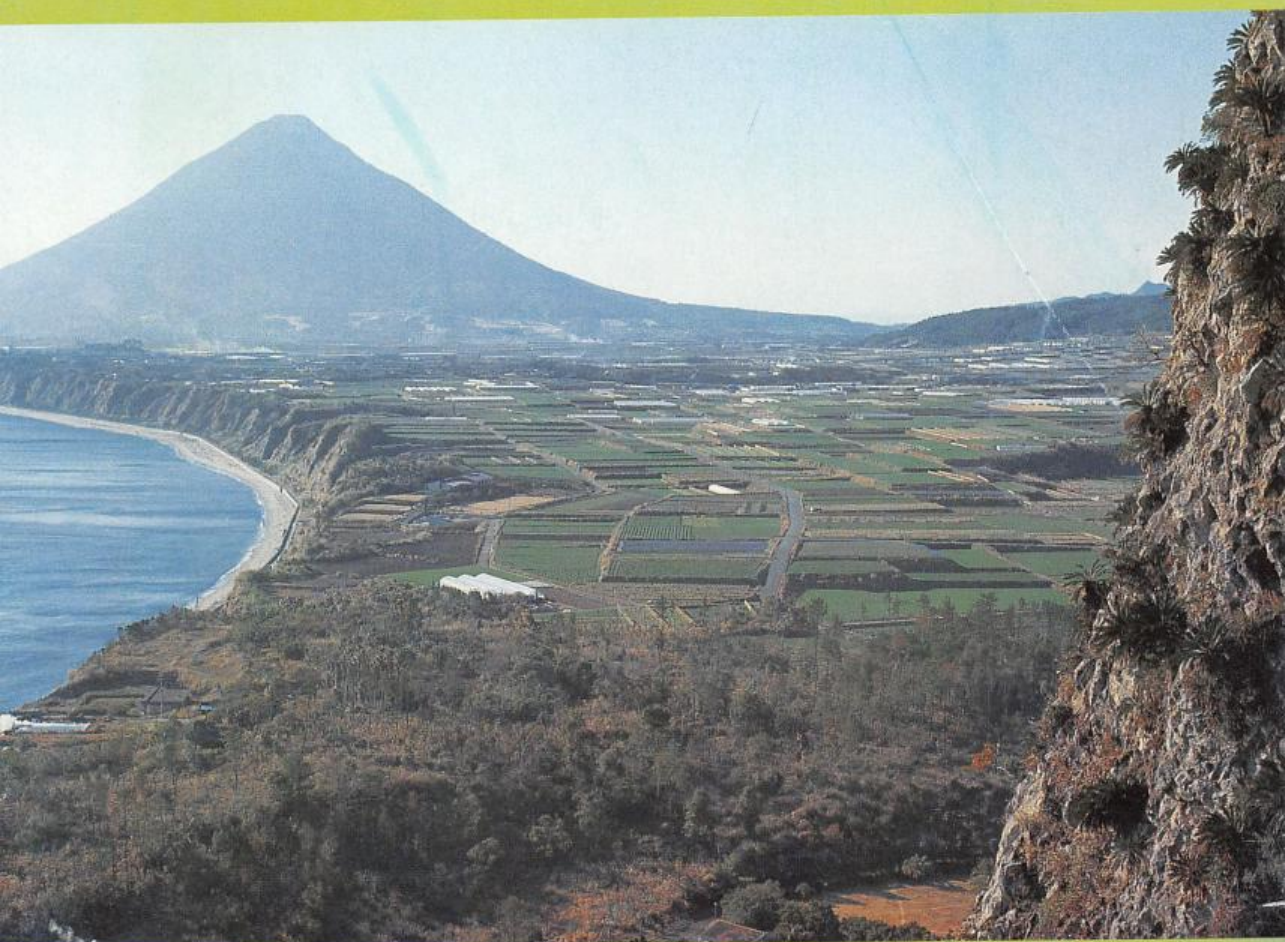


永久保存

鹿児島島の自然調査事業報告書Ⅰ

# 南薩の自然



1994

鹿児島県立博物館



# はじめに

## ～豊かな鹿児島県自然～

鹿児島県は、我が国本土の西南部に位置し、太平洋と東シナ海に囲まれた、東西約300km、南北約600km、総面積約9,167km<sup>2</sup>の広大な県土を有します。種子島、屋久島、奄美大島など大小200余の島々を有し、海岸線の総延長は約2,700kmにも達します。

また、霧島、桜島、南海のトカラ列島まで多くの火山を有し、紫尾山、霧島山、高隈山、宮之浦岳等高い山地が分布します。

気候的には、温帯域から亜熱帯域に属するため、北限種や南限種、貴重種等生物学的に重要な種が多く見られ、動植物は多彩で極めて種類は多く、天然記念物に指定されている動植物はリリカケス、アマミノクロウサギ、リュウキュウコウガイ、チスジノリ等35種を越えます。

また、始良カルデラや阿多カルデラをはじめとして、種々の火山活動による地形等多様で多彩な地質学的資料も豊富に分布しています。

九州一の高さを誇る宮之浦岳、約1,300種の高等植物と約200種の脊椎動物、学術的に極めて貴重な植物垂直分布、樹齢約数千年の縄文杉をはじめとするヤクスギ群等を有する屋久島は、日本初の世界自然遺産に登録されました。日本だけでなく、世界の貴重な財産として後世に受け継がれていくこととなります。

また、屋久島の南西に伸びるトカラ列島を境界として（渡瀬ライン）、動植物の種の分布に大きな違いが見られることも、生物学上極めて重要であり、鹿児島県自然を多彩にし、豊かにしています。

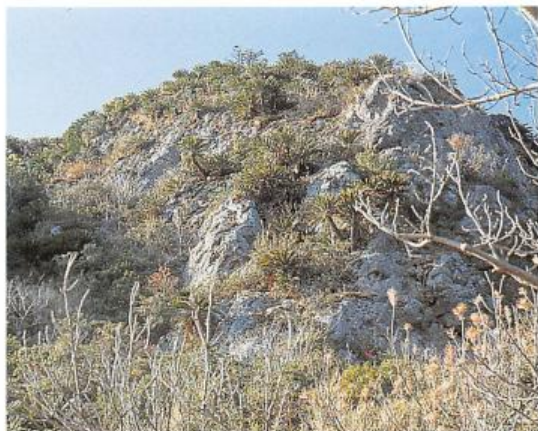
鹿児島県立博物館では、平成5年度から、このように多彩で豊かな鹿児島県自然を5ブロックに分けて年次的に総合的な調査を進めることとしました。

この報告書は、平成5年度実施した南薩地域の自然の総合調査の結果をまとめたものです。本書が、本県のすばらしい自然を知り、自然を守る大切さを知る一助となれば幸いです。

平成6年3月

鹿児島県立博物館長 立園多賀生





山川町竹山のソテツ



大浦町越路のメヒルギ



開聞町開聞岳の照葉樹林



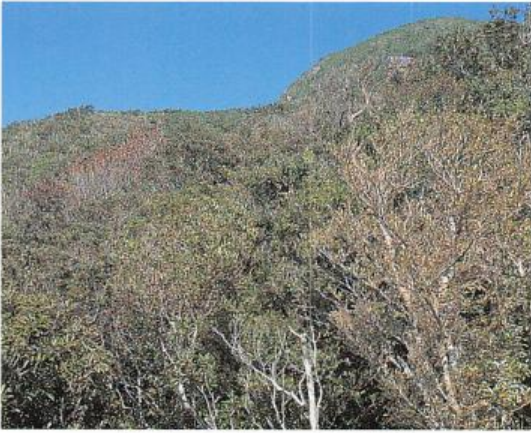
開聞町開聞岳の風衝低木林



加世田市小湊のマテバシイ林  
(撮影 寺田仁志)



坊津町耳取峠の海岸性風衝低木林  
(撮影 寺田仁志)



笠沙町野間岳の照葉樹林



笠沙町野間岳のヤッコソウ



笠沙町野間岳のアラゲサクラツツジ



大浦町磯間岳のチョウセンノギク



穎娃町のアツバアサガオ



大浦町磯間岳の照葉樹林



大浦町磯間岳のコゴメイワガサ



大浦町磯間岳のサツマイワギリ



枕崎市のオオバクサフジ



枕崎市立神のマルバニッケイ  
(撮影 川原 勝征)



大浦町小湊のグンバイヒルガオ



喜入町千貫平のタムラソウ



開聞町開聞岳のオサシダ



穎娃町大野岳のヒゴスミレ



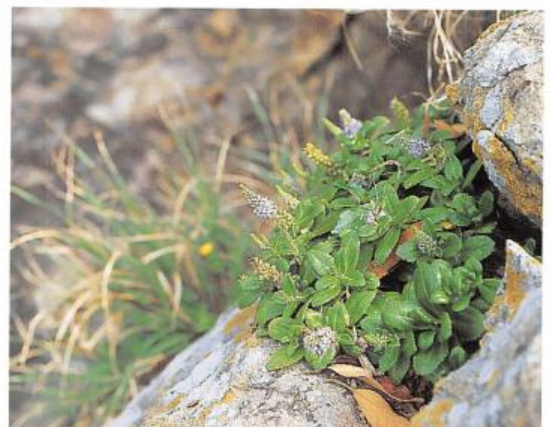
宇治群島宇治島の照葉樹林



宇治群島宇治島のハマヒサカキ



宇治群島宇治島のナンゴクアオイ



宇治群島宇治島のハマトラノオ





アマガエル 川辺町 1985.5.10



シュレーゲルアオガエル 川辺町 1985.5.5



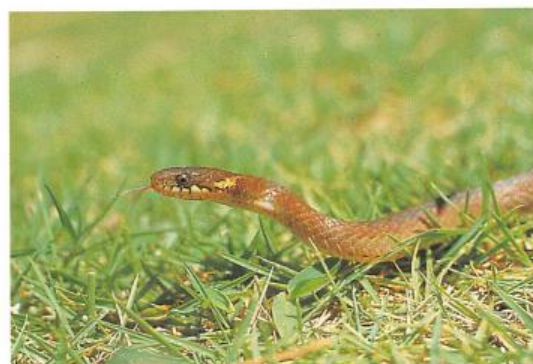
ニホンアカガエル 山川町 1986.3.8



メクラヘビ 山川町 1992.10.1



シロマダラ 山川町 1990.4.5



ヒバカリ 開聞町 1986.8.10



アカウミガメ 山川町 1990.6.15



サイゴクジネズミ 指宿市 1987.5.10



カラスバト 宇治群島(宇治島) 1993.9.25



アオサギ 宇治群島(宇治島) 1993.9.25



ヒドリガモ(白色型♀) 川辺町 1993.12.12



ヤツガシラ 山川町 1992.3.1



サツマニシキ 開聞町 1993.10.26



アオタテハモドキ 開聞町 1993.10.26



オナガサナエ 川辺町 1993.7.24



スナアカネ 開聞町 1993.10.26  
(脊椎動物撮影 鮫島正道)



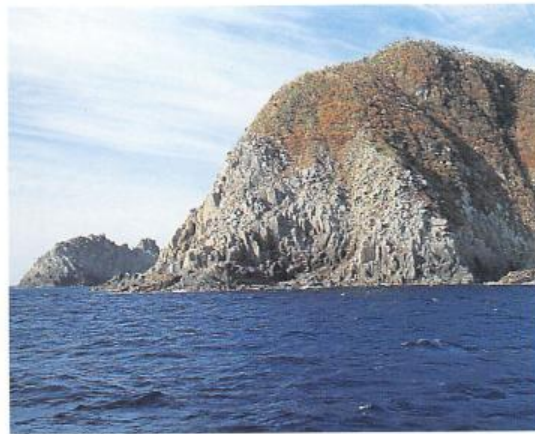
宇治島 港をのぞむ。



宇治島、酒井浜北方のガ口鼻  
火山岩よりなる。



宇治島、港  
溶岩の流理構造、ゼノリスもみられる。



宇治向島、センバ鼻  
火山岩と思われる。



宇治向島、友ノ浦  
火成岩の岩脈がみられる。



宇治向島  
堆積岩中にみられる生痕化石(サンドパイプ)



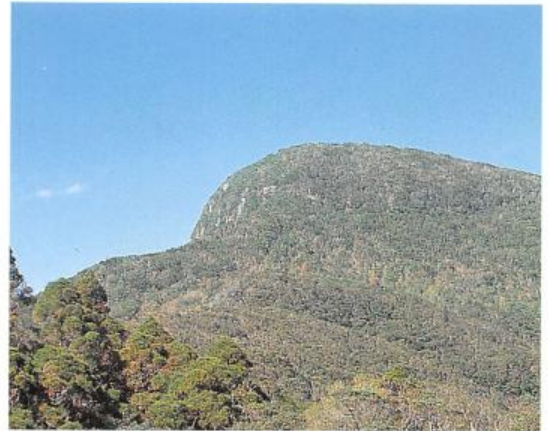
開聞岳山麓にみられる溶岩流の舌状模様（開聞岳山頂から）



開聞岳登山道6合目付近の火山礫スコリア層



縄状溶岩  
開聞町花瀬海岸



野間岳  
山頂近くは溶岩が絶壁をなしている。



野間岳の山腹540m付近の溶岩にみられる流理構造



野間岳山麓でみられる溶岩と凝灰角礫岩との境界部（境目から水がしみ出している）

# 目 次

鹿児島自然調査事業実施要項	2
調査担当者、調査地域	3
一次調査	
南薩地域の自然林分布	4
植生調査結果	17
昆虫類調査結果	49
鳥類調査結果	58
ほ乳類調査結果	64
二次調査	
開聞岳の自然	
植 物	
概 況	67
植生調査結果	69
昆 虫	77
ア ー 類	78
鳥 類	82
地 質	85
野間岳の自然	
植 物	
概 況	88
植生調査結果	91
昆 虫	97
鳥 類	98
地 質	101
宇治群島の自然	
植 物	
概 況	104
目 録	106
昆 虫	112
鳥 類	114
地 質	117
南薩地域の自然	
1 南薩地域の自然の成り立ち	
植 物	119
動 物	124
地 質	125
2 南薩地域の植物	127
3 南薩地域の動物	
トンボ類	129
脊椎動物	131
4 南薩地域の地形	138

# 鹿児島県の自然調査事業実施要項

鹿児島県立博物館

## 1 趣旨

鹿児島県の自然の学術的総合調査，資料収集を全県的に実施することにより，鹿児島県の自然の姿を県民の貴重な財産として明らかにし，鹿児島県の自然を県内外に紹介するとともに，県民の郷土の自然に対する理解を深める。

## 2 調査地域

南薩地区

## 3 調査の内容

各ブロックごとに自然林の悉皆調査（一次調査）を実施し，その中から代表的な4地域について総合調査（二次調査）を実施する。

### (1) 一次調査（自然林悉皆調査）

- ・自然林の分布（分布図作成）
- ・自然林の概要把握（調査表の作成）

### (2) 二次調査（動植物を中心とする総合調査）

代表する4地域について実施する。

- ・種の確認
- ・特定種の分布
- ・生態系の成り立ち等

## 4 実施方法

### (1) 企画指導委員会の設置

学識経験者4人（動物・植物各2人）

### (2) 現地調査員の委嘱（植物4人，動物3人）

### (3) 一次調査

調査対象ブロック内の市町村教育委員会に依頼し，現存自然林をリストアップするとともに，現地調査員等により自然林構成を把握する。

### (4) 二次調査

一次調査の結果を企画指導委員会で検討し，ブロックを代表する自然林を4地域抽出し，企画指導委員会委員及び現地調査員，博物館職員で総合調査を実施する。

## 5 調査のまとめ

### (1) 自然林分布図の作成

### (2) 調査表による自然林概要のまとめ

### (3) 南薩地区の自然の成り立ちのまとめ

### (4) 収集資料の整理，標本の作成

### (5) 調査報告書の作成

## 6 活用

整理・分析・研究によって得られた新たな成果を魅力ある充実した博物館活動の諸事業に活用する。

- ・常設展の更新
- ・企画展の開催
- ・レファレンス・情報提供

# 調査担当者, 調査地域

## 企画指導委員

氏名	担当	備考
大野 照好	植物	鹿児島短期大学教授
鮫島 正道	動物	長崎鼻パーキングガーデン園長
山根 正気	動物	鹿児島大学理学部助教授
川窪 伸光	植物	鹿児島大学教育学部助教授

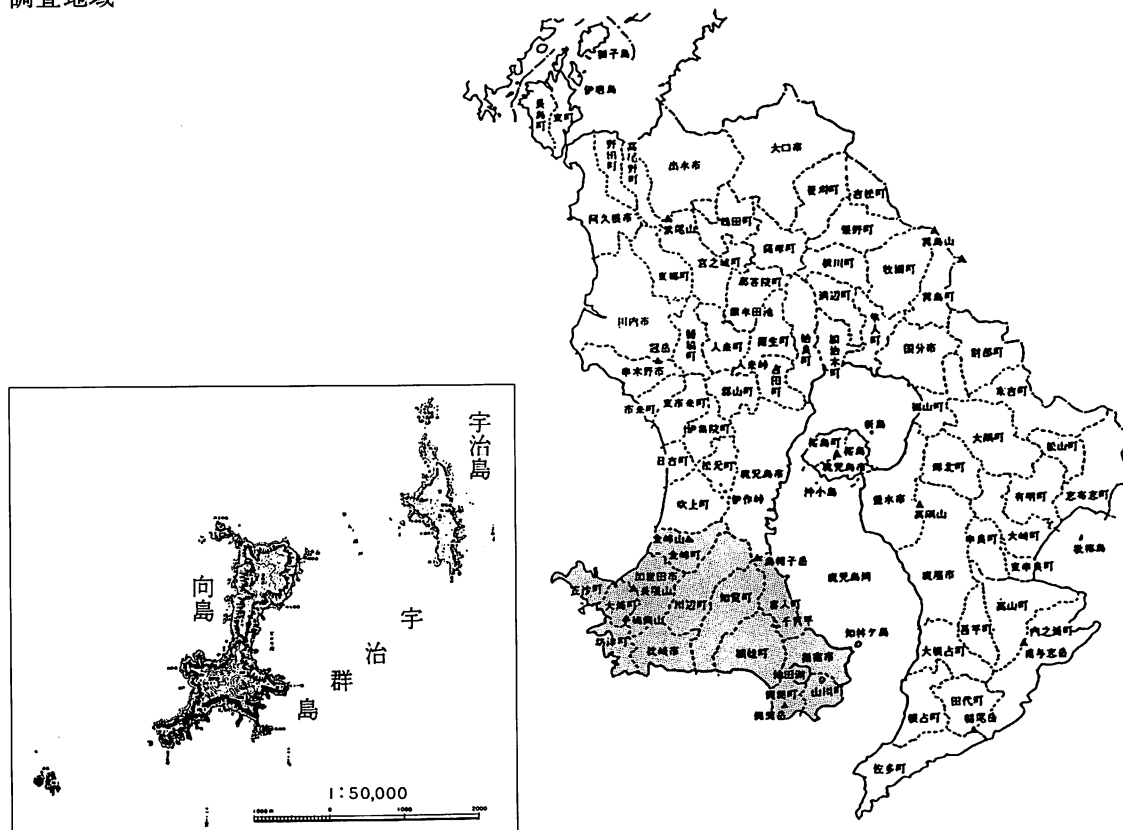
## 博物館職員

氏名	担当
中村 博志	総括
立久井 昭雄	植物
今増 俊明	地質
江平 憲治	動物
黒江 修一	記録

## 現地調査員

氏名	担当	備考
満尾 正廣	植物	鹿児島県植物同好会
寺田 仁志	植物	鹿児島県立大口高等学校教諭
山崎 重喜	植物	枕崎市立枕崎中学校教諭
川原 勝征	植物	鹿児島市立明和中学校教諭
酒 匂 猛	動物	鹿児島市平川動物園主幹
柳田 一郎	動物	日本野鳥の会鹿児島県支部事務局長
永田 俊行	動物	鹿児島昆虫同好会

## 調査地域



鹿児島県の自然調査事業報告書 I

## 南 薩 の 自 然

発行日 平成 6 年 (1994) 3 月 31 日

発行所 鹿児島県立博物館  
〒892 鹿児島市城山町 1-1 (TEL 0992-23-6050)  
(FAX 0992-23-6080)

印刷所 日進印刷株式会社  
鹿児島市加治屋町16-20  
TEL 0992-22-8291